

教育再生会議の第2次報告の中に「德育の教科化、教材の充実」とある。教材と聞き、7億3000万円をかけ全国配布された『心のノート』を連想した。世界の平和と人類の幸福を考える」等の言葉が並ぶ。そのような教材の使用が義務化されることを危惧する。

「德育」は緊急課題である。しかし、現場で試行錯誤し道徳の授業に取り組んできた立場から言えるのは「既製の教科書で教えるのは難しい」ということである。生徒を取り巻く環境は地域により学校により違い、刻々と変化している。扱う担任の特性もある。「多様な教材を機能に応じて使う」と言っても、生徒を目の前にせずに作られる教材には限界があるだろう。

私たちの学校では、教科書は使わない。担任任せにもしない。学校目標に照らし、学

解答乱麻

品川女子学院校長 漆紫穂子



年主任が中心となり生徒の現状に合わせて計画を立てる。授業は主任を主体に必要なに応じて担任とT.T(チームティ

德育の根本考えよう

ーチング)できるように時間を割く。さらに校長が加わることもある。茶道、華道、着付け、礼法、企業とのコラボレーション等々、学校外の専門家、社会人をゲストに招いて行う時間も多。

生徒が学校の外に出ていくこともある。中一では国土交通省と協力し校舎前の歩道に

うるし・しほ」東京都内の私立校教諭を経て品川女子学院で学校改革に着手。社会で活躍する女性の育成を目指す。昨年4月から現職。文科省新システム開発プログラム委員。

花壇を作っている。道行く人々の雑草に「ここはお宅の責に「ありがとう」「お花、楽任、すぐ抜いて」と近隣からしみにしているのよ」と声を匿名電話がかかってくる。かけられ、社会ごとながり、実社会は矛盾に満ちている。善悪の境目も微妙だ。教科書の役に立つ喜びを知る。

この取り組みも3年目、その書教材のような正解が用意さ

ーチング)できるように時間を割く。さらに校長が加わることもある。茶道、華道、着付け、礼法、企業とのコラボレーション等々、学校外の専門家、社会人をゲストに招いて行う時間も多。

生徒が学校の外に出ていくこともある。中一では国土交通省と協力し校舎前の歩道に

って見せても意味がない。ありのままを体験させることが必要なのである。

こんなこともあった。近隣の企業の社内プログラムでこの花壇のことが話題になり、「中学生がこつとして社会貢献しているのだから、自分たちも地域貢献を」と議論が展開したというのである。

社会的弱者の子供たちのすることだから、社会に影響を与えることもある。子供たちが学校の外の社会に一歩出ることで、大人の「徳」が

「育つ」ともあるのである。「育つ」とも

教育

毎週水曜日掲載